

## わたしの仕事 (35)住友電気工業(株)

河内星子 (H19/2007卒)

## 1. はじめに・自己紹介

こんにちは。河内星子(かわちせいこ)です。2003年に物理工学科に入学し、4回生で熱物理工学研究室(当時は牧野研)に所属しました。2007年に学部卒で住友電気工業(株)に入社し、現在まで勤続しています。

今回、ご縁あって寄稿させて頂くことになり、自分にとっても改めてこれまでの仕事を振り返る良いきっかけとなりました。この機会を頂いた吉田先生に感謝しております。

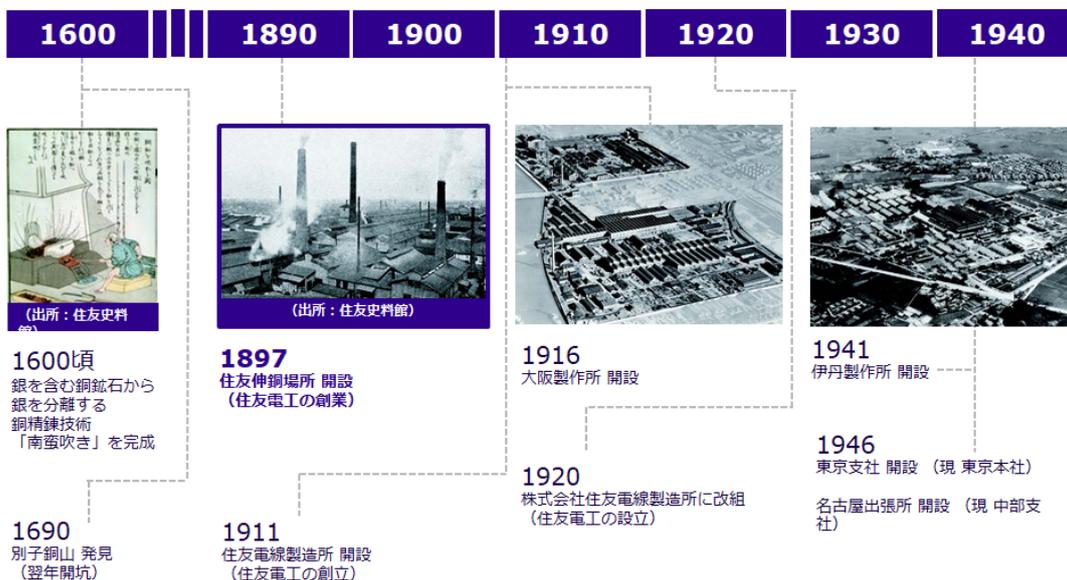


職場の仲間と登山(前列左が筆者)

## 2. 住友電気工業(株)について

まず住友電気工業(以下、住友電工)について簡単にご紹介します。

日本国内で製造業に従事されていれば、社名くらいは聞いたことがある、という方が多いかもしれません。しかし一般的にはあまり知名度が高くないため、入社してしばらくは親戚などにどこで働いているか覚えてもらいにくいのが難点です。私自身、部活の先輩が就職したときに、初めて住友電工の社名を聞いたような気がします。



また、仮に住友電工と仕事上の付き合いがあったとしても、取り扱う製品が多岐にわたるため、どの部門と付き合いがあるかで企業イメージがそれぞれ異なっているようです（個人的な観測範囲での印象ですが）。また、せっかく住友電工のこと知ってるよ！と言って頂いても、そんな製品つくってたっけ？というリアクションになりがちで、申し訳なく思うこともしばしばです。かつては（おそらく今でも）「住友電工は中小企業の寄せ集め」と言われたように、雑多な小さな組織がそれぞれに独自の製品技術で勝負しているような面があり、それは住友電工の強みでもあり弱みでもあります。

**自動車** CASEの加速的進展とモビリティの進化に貢献する。



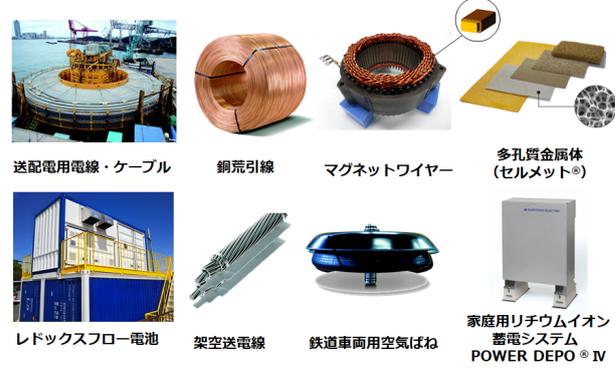
**情報通信** 増加するデータトラフィックに応え、大容量高速通信時代の実現に挑む。



**エレクトロニクス** モバイル端末・自動車・航空機器のさらなる進化を支える。



**環境エネルギー** 再生可能エネルギーの普及など、新しいエネルギーシステムを構築する。



**産業素材** 高機能な素材を開発・提供し、産業や社会インフラの発展に寄与する。



会社四季報などで確認できる業種分類では、住友電工は「非鉄金属」に分類されますが、これは電線（銅線）の製造から事業を始めたことによります。現在では売り上げの多くを自動車関連部品、とくにワイヤーハーネスが占めている、いわゆるBtoBメーカーになっています。近年の主要な製品を挙げるだけでも、ワイヤーハーネスをはじめ、高圧電線ケーブル、光ファイバ、化合物半導体、電子デバイス、超硬工具、交通制御システム、など多岐にわたり、一言では紹介しきれないのが住友電工という会社です。

それでもやはり材料系のイメージが強く、最終製品にも機械装置はほとんどないため、機械系エンジニアが活躍するイメージが湧きにくいかもしれません。採用活動の時期にも、機械系の学生の興味を引くのに苦労することが多いのですが、実際には、たくさんの京機会出身者が住友電工の様々な部門で働いています。その活躍分野は、王道の機械設計から製品の構造設計、ソフトウェア開発、材料開発、解析など多岐にわたっています。

私が入社した2007年頃は、グループ会社全体での売上の中で海外が占める割合はまだ1/3程度でしたが、今では半分を超え、6割に迫る比率となっています。必然的に海外拠点も増え、社員が海外で仕事をする機会も多くなりました。世界的なパンデミックで人やモノの流れは一時的に急減しましたが、そのような状況であっても、ビジネスの舞台が広がっていく流れは変わらないだろうと感じます。

### 3. 私の仕事

#### 3. 1. どんな仕事

2007年に入社してから2021年9月まで生産技術部という部門に所属していました。まず、この生産技術部について紹介します。

私が9月まで所属していた生産技術部は、前項で紹介したように“寄せ集め”でできている住友電工の中ではやや珍しい、全社横断的な組織のひとつです。事務系の部門では人事や経理などがありますが、技術系では生産技術部と、社内の通信インフラ整備を担う情報システム部、それに一部の研究・企画部門しかありません。特に生産技術部は、住友電工のような“寄せ集め”の製造業ではやや珍しい、住友電工グループ全社のモノづくりレベル向上を推進・実現する役割を期待されている部門です。そのための有形無形の技術開発だけでなく、実際に工場を建て、生産設備を設計製作し、生産ラインを整え、改善するところまで自分の手

を動かして参画することが求められます。

では私自身はどのような仕事に携わっていたかという、ひとことで言うなら「検査装置の開発・設計」です。社内の様々な製品の検査（出荷前の最終検査や、途中の工程内検査など）を自動化するための技術開発と、その装置の設計が主な仕事です。つまり、主な「お客さん」は社内の生産現場です。もちろん、検査装置を製造・販売している装置メーカーはたくさんありますが、私が所属していたグループで手掛けている製品は、全くの新製品で製品の情報を社外に出したくないもの、あるいは検査技術が世の中で確立していないものや、既製の検査装置では必要な精度が得られないもの、などです。

そういった要望に対し、計測・制御技術の知識や経験をもとに、新しい検査装置を開発・設計します。仕事の性質上、具体的な内容をここで書けないのが申し訳ないのですが、入社してから学んだ画像処理、センシング、制御プログラミングなどの知識を生かして装置の開発に取り組みました。

仕事のやりがいは、やはり自分で開発した装置が実際の製造ラインで稼働したときに感じる達成感にあります。単なる技術開発だけでなく、すぐに役立つ、つまり“稼げる”装置をリリースするところまでを求められますが、それが実現できたときはそれまでの苦労が報われるような気持ちになります。

また、全社横断的な組織であることで、様々な製造現場のことを直に知ることができるのも生産技術部の仕事の面白いところです。私が就職活動中に住友電工に興味を持ったきっかけが「いろいろな製品をつくっている」という点であり、それを実感できる職場だったと思います。一つの組織に所属していながら、精密な電子デバイスの実装ラインから巨大な設備が並ぶ海底ケーブルの製造ラインまで、多様なモノづくりの現場に当事者として参加できるところがとても特徴的です。

その代わりに、自分がイチから作り上げた製品を世の中に送り出す、という経験はできないのですが、私自身はこの、色々なモノづくりに首を突っ込むような仕事のやり方が向いていたようです。十数年勤める中で色々なモノづくりについて学び、同僚にも恵まれ、楽しく働かせてもらいました。

### 3. 2. グローバル化とダイバーシティ

前項で紹介した通り、海外の売上比率が増えている状況なので、社員としても

海外で仕事をする機会が増えています。もちろん、新卒の新入社員の中に海外でビジネスの経験がある人はほとんどいないので、会社として若手にどうやって海外経験を積ませるか、ということについても検討が進み、ここ数年で色々と選択肢が増えました。

海外経験のある方だと分かって頂けるとは思いますが、海外の支店や関係会社の立場からすると、日本から出張や駐在の形で派遣される社員は、一騎当千の“なんでもできる”、“経験豊かな”人材を求められます。それは現地スタッフを教育・統括したり、日本国内と比べるとステークホルダーの多い複雑なプロジェクトを限られた人数で推進することが必要なので、当然と言えば当然なのですが、それではなかなか若手が経験を積む機会が回ってきません。

そこで、研修の一環として、人事が一部費用を負担したり、期間を短く区切って海外に短期駐在できるような制度が整えられ、比較的、経験の浅い若手社員を海外に送り出すハードルが下がってきました。本人の適性を見極めるという意味でも、色々な選択肢があることは若手社員にとってもプラスになるだろうと思います。

私自身は、そういった諸制度とはまったく縁が無く（制度がリリースされたときにはすでに対象の年次を過ぎていたので…）、2011～12年にかけて約1年半の間、中国・蘇州での新工場立ち上げのプロジェクトにかかわったのが、最も大きな海外経験です。複数の製造ラインをさみだれ式に立ち上げていく計画で、一か月毎に出張と帰国を繰り返すような生活をしていました。

新しい工場の立ち上げだったので現地スタッフも勢いがあり、賑やかで面白い現場でしたが、当然、工場の運営面や技術面では未熟なので、毎日なにかしらのトラブルに見舞われていました。それでも、本当に何も無いところに一台ずつ設備を運び込み、ユーティリティを繋ぎ、動かす、というところから1年が経つ頃にはそれなりの工場として操業できるようになっていたときには、さすがに感慨深いものがありました。このときに国内外および社内外のたくさんの人と一緒に仕事をして、様々な立場や考え方のもとで自分の役割を果たせたことは、その後の仕事の進め方に大きく影響を与える経験となりました。

私のように、個人的な経験としてグローバル化やダイバーシティの進展を実感している社員は多いと思いますが、会社全体の組織的な取り組みとしてはまだ道半ばかなと思います。住友電工は大きくて古い組織なので、良くも悪くも変化は

ゆっくりとしています。10年前に比べれば、ライフステージに関わる諸制度は利用しやすくなり、女性や外国籍の社員は増え、社内外の研修で学ぶ機会も多くなりましたが、ダイバーシティが組織風土として根付き、新しい競争力を生み出すまでにはまだまだ様々な努力が必要そうです。

なお、住友電工の組織風土で良い点をひとつあげると、部門長などの意思決定者について、役員クラスに至るまでエンジニア出身者が過半数を占めるうえ、BtoBでの商売がほとんどなため、様々な場面で技術的な議論が尊重されやすく、立場に寄らないフラットな意見交換をしやすい、というところがあります。エンジニアとして働くうえで、とてもありがたい風土です（会社全体の利益向上に即効性があるかと問われると難しいところですが）。そういう良いところを活かしつつ、新しい価値観も根付いてより良い組織になって欲しいと個人的に思っています。

### 3. 3. リクルータ経験を通じて感じたこと

私の仕事という意味で重要な要素のひとつが、入社以来ずっと続けているリクルータ業務です。就職してから数年間は学生に近い立場の先輩として、勤続10年を越えた頃からは、それなりに経験を積んだ社会人として、毎年、就職活動中の京大機械の学生の皆さんとお話しする機会を頂き、大変貴重な経験となりました。研究の話聞かせてもらったり、就活に関する不安や悩みを伺ったりしていると、私自身も学生時代に、何も分からずに迷ったり悩んだりしていたことを思い出します。

自分が就活をしていたときは、なんとなくメーカー中心に見て回っていたものの、特にやりたいことがあったわけではなく、住友電工みたいに色々やっているところだったら、働いているうちに何かやりたいことや向いていることがみつかるかな、と考えて入社しました。そしてそれは、そんなに間違っていなかったと思います。やりたいことが特になく、それに負い目を感じることなく、色々な人と話をしてみたら良いのではないかと思います。

また、自分の就活当時はほとんど意識していませんでしたが、住友電工のような比較的大きな会社であっても、京大機械系出身者には技術力だけでなく、マネジメントを担う役割も期待されています（前で書いた通り、特に住友電工ではマネージャー層の多くがエンジニア出身であるという事情も関係していると思いま

すが)。

私自身、マネジメントの仕事が面白いと思えるようになったのは最近のことです。就職活動をしていた頃や、入社して数年間は、自分の手を動かして何かを作るほうが絶対おもしろい、人の上に立つ仕事なんて向いていないしめんどくさそう、とっていました。

しかしここ数年で仕事の範囲や裁量が広がったことで、どんな分野であっても、物事は複雑化していて自分ひとりの力で出来ることは限られており、その一方で、人と協調し、みんなで頑張ることで大きな成果が得られるということ学びました。その、みんなで頑張るために方向性を示して環境を整えることこそがマネジメントの役割であり、上手くいったときの達成感は、やはり一人で仕事をしているだけでは味わえないものです。

もちろんエンジニアとして日々の勉強、知識のアップデートは必須ですが、それを前提としたうえで、学生の皆さんには、そういう方向で力を発揮できるかもしれない、ということも頭の片隅に置いて頂ければと思います。

#### 4. 最後に

ところで、2021年10月に生産技術部から異動になり、事業部門の設備設計者として新しい職場で働いています。これまでよりもビジネスの現場に近く、自分の仕事が明日の売上に直結するような職場です。そういう場所でも役に立てそうだと評価してもらえたということで、その期待に応えられるように力を尽くしたいと思っています。

また、これまでの道のりを振り返ると、様々な形で諸先輩方のサポートを頂いてきたことに気付きます。私自身も中堅と言われる年頃になり、おかげさまで後輩も増え、その活躍を目にする機会も多くなりました。これからは学生の皆さんを始め、若い人をサポートする立場であることを意識して、できる限りの支援をしたいと思っています（これは多くの先輩方も同じですよ）。

色々先の見えにくい世の中ですが、親切心と好奇心を忘れずにサバイブしていきたいものですね。末筆になりますが、京機会の皆様のご多幸とご健勝をお祈りしております。